

CAP 制導入による就活や卒業研究への影響について

【ご意見・ご要望】（投稿日：2020年6月18日）

まず、学生意見箱 2020年4月8日回答の「キャップ制導入に対する抗議」から引用します。

「また、CAP 制の導入により、就職活動や卒業研究に影響を及ぼすということですが、回生が上がるごとに履修登録数が少なくなっていることは学生の履修登録の状況から明らかです。」

回生が上がるごとに履修登録数が少なくなるのは、学生が就職活動や卒業研究に備えて早いうちに単位を取得しているからです。それは、国際高等教育院が公表しているデータを見ても、2018年度に1回生だった学生は約6割が1回生で60単位以上を取得していることから明らかです。

半期で30単位のCAP制導入により、今までよりも上回になった時に履修しなければならない単位数が増えることは明白です。にも関わらず、半期で30単位のCAP制導入以前のデータを元に、就職活動や卒業研究には影響を及ぼさないというのは、論理が逆転していると私は思います。

この点に関して、本当に半期で30単位のCAP制導入が、導入以前と比較して学生の就職活動や卒業研究に影響を与えないと考えているのか、京都大学としての見解をお聞かせ願います。

【回答】（回答日：2020年7月17日）

（回答者：教育推進・学生支援部教務企画課）

CAP 制の導入については、導入前の履修登録状況や成績との相関を参考資料とし、導入後の状況を推定して決定しました。

「CAP 制が就職活動や卒業研究には影響を及ぼさないか」ということですが、1回生前期から無理をせず30単位内で履修登録し、的確な学修時間を確保することで、多くの学生に大きな影響を及ぼすことはないと考えます。また、CAP 制は1.2回生の中で過剰な履修によって躓く学生を防ぐということも期待される効果の1つです。今年度入学者よりCAP 制が始まったばかりですので、今後の履修状況を注視しつつ、必要であれば上限単位数等を再検討することになります。